

第一回 佐々木正美氏研修会

「自閉症の人が地域で生活するために ～理解者に恵まれて～」

第一回 佐々木正美氏研修会

テーマ：「自閉症の人が地域で生活するために ～理解者に恵まれて～」

講演：佐々木正美氏（児童精神科医、川崎医療福祉大学教授）

日時：2011年10月2日 14:00～16:00

場所：練馬区立勤労福祉会館

司会：新井豊吉（特別支援学校教師）

司会者：皆さん、こんにちは。何人かの方が「落語はこちらですか？」といらっしゃいましたが、こちらは講演会です。佐々木先生は落語はなさいませんので…。(笑)

それでは、講演会を始めます。

皆様ようこそいらっしゃいました。

石神井特別支援学校がこの近くにあります。その、私を含めた何人かの教員が、是非練馬区に佐々木先生をお呼びしたいと話合ってきました。そして、多くの団体の方が賛同して下さい、講演会の運びとなりました。それらの団体のパンフレットが後ろに置いてございますので、よろしかったらお取り下さい。

計画を始めたのが4年前、先生の予約が取れたのが2年前でした。保護者の方々に是非いらして頂きたい、それには日曜日の午後で、保育が必要だ、ということで準備をさせて頂きました。

いまこうして実現したことを、とっても嬉しく思っております。

先生はきょうは午前中 医師会で講演を済ませまして、ご飯も食べずに自分で運転してこちらまでいらして下さいました。

それでは、先生よろしく願いいたします。

皆さま、こんにちは。お昼を食べないで参りましたが、こちらへ来て、頂きましたよ。ですからどうぞ何もご心配なさないで下さい。

1. 発達障がいのスペクトラム

“自閉症スペクトラム”という言い方がありますが、スペクトラムという言葉は連続体という言葉ですよ。どのように連続体なのかと言うと、自閉症の人、それから自分は自閉症でないと思っていられる人、その間がずっと連続性がある、こういうことですね。

一線を引いて、この線から向こうの人が自閉症、この線からこちらは自閉症でない人です、こんなことは言えないのです。

これからいろいろお話しをしていきます。できれば「ああこういう所は自分でも思い当たるなあ」というようなことを頭においてお聞き頂けるといいと思うのです。と言いますのは自閉症の人に対して理解を深めて頂かないと、自閉症の人は決して幸福になれないのです。周りの人が理解者でないと、自閉症の人は非常に苦しみます。

この講演に、私は《理解者に恵まれて》という副題を付けました。

弱点を修正するのではなくて、弱点を治そう

【 講演 】

とするのではなくて、持っている長所、優れた点をしっかり伸ばすように、そのように育てられるのが幸福なのです。

そして“発達障がいスペクトラム”という言い方が私は好きです。と言いますのは、昔は「何ちゃんは自閉症です」とか「Aちゃんは自閉症だ」「Bちゃんは自閉傾向がある」と言われた、「Cちゃんは自閉的だ」と言われた。何にも違いはありません。そういうふうに、その時の診断する人の気分と言ったら変ですけれども、お母さんがどれくらいそういう問題を受容して下さるかどうかということ案じながら、いろいろカムフラージュをしてお伝えしたんですよ。自閉症と言われるよりは自閉的などころがありますねとか、自閉傾向がありますねと言われると、何か軽く聞こえるというか、そういう安心感を期待しながら臨床者は言いました。

今は、“スペクトラム”と言います。

呼び名は本当は私はどちらでもいいと思っていますが、だんだんに広汎性発達障がいという言葉が出てきて、その中で、能力の高い人の場合に、どういう能力がどのように高いかということを、細かくはここでは詮索しませんが、そういう人たちを高機能自閉症と言ったり、IQの検査を受けると正常以上に高い、こういう人たちをよく高機能自閉症とこう言いました。今でも言います。それから、話し言葉が自由にお話しになれる人をアスペルガー症候群とこんなふうに区分けをしているようでいて、実は出来ません。みんな一線を画することが出来ないのにもかかわらず、こういうようなことが言われているわけです。

ご両親・保護者の方で、「Aちゃんは自閉症ですね。でも、ADHD注意欠陥多動性障がい、それもありますね」というふうに言われて、障がいが二つあるかのような言われ方をされた方がいるかと思うのです。自閉症だけでもADHDもあるとか。こんなことはないのですよ。みんな

なこれはひとかたまりの、一群の連続体です。

風邪を引きました。「インフルエンザですね」と言われました。何ちゃんの場合は咳が強いですね、何ちゃんは熱が高いですね、とこういうことであって、インフルエンザには変わらないわけですね。そういうふうに、ご理解頂くといいいのです。

発達障がいスペクトラムの中で、ADHD注意欠陥多動性障がいと言われるような“特性”を持っていらっしゃる。それから、学習障がいLDと言われます。勉強出来ない人を学習障がいと言うのではありません、誰もが怠ればみんな出来ないのです、それは学習障がいと言うものではないのです。それは、ある特別な領域がなかなかうまくいかない、どうしてこんなことが上手くいかないんだろう、と思うような学習のいろんな面にてこぼれおうとつがある、学習障がいがある、とこう言われますね。計算はとっても素早く良く出来るのに、応用問題になると数式が書けなくなる、これは一つの例であります。IQがこんなに高いのに、どうして作文が書けませんか、そういうような意味合いで学習障がいと言ったりします。

この人たち全体を、学習障がいとか注意欠陥多動性障がい・ADHDとか自閉症とかアスペルガーとか何とか、というふうに分類するのは私はあまり好きではありません。そしてそういう分類をあまり致しません。

みんなこの人たちはひとかたまりの連続体の人です。その連続体と言うのは、私たちとも繋がっているのです。いろんな程度に、連続性があります。どこからが発達障がいどこからがそうでない、という一線を引くことは出来ません。

比喩的な例として、こういう比喩がいいかどうか分かりませんが、IQならIQを基準にして、あの人は頭がいい人ですね、IQが130とか140

とかもつとあるとかというような人を、頭が悪い人ですね、と言う人がいるとします。それでは、“頭が悪い人ですね”ってどこから言うのですか？ “普通の人”ってどこから言うのですか？ 一応それは、学会はね、IQがいくらからいくらまではどういうこういと決めていますよ。けれども、連続性ですよ、みんな連続性、連続体です。

いろんな能力に個人差があり、おうとつがありでこぼこがあり、不均衡さがあり、どういうことが得意でどういうことが苦手で、等々があるわけです。例えば、お母さんが、お料理は得意だけどお洗濯は苦手だとか、そういうことがあるわけです。発達障がいですかそれは。そういうふうなものです、言ってみれば。そういうふうにとらえていくと、みんな発達障がいのように思えてくるわけですね。

何もかもバランスよく得意だというような人はいないわけです。ことさら、どういう領域が得意でどういう領域が不得手で、というようなことで発達障がいということを考えていくことが多いわけです。それで発達障がいスペクトラム、連続体とこういう言い方をします。

連続性があるということは、全ての人の間にいろんな程度に連続性がありますから、とこういうふうにご理解下さい。

この人たちの持っている特性は、一人ひとり違います。例えば、「自閉症」と言われた人がいるとします。そうすると、共通点があるから「自閉症」と臨床者たちは診断しました。共通点があるからです。

けれども自閉症と言われた人たちはみんな共通点を持ちながら、一人ひとり違います。みんな個人差を持っています。個人差を持って、一人ひとり違うのです。一人ひとり違うのですけれども、共通点をみなさん持っていらっしゃる。それが、ADHDでもLDでも自閉症でもアスペ

ルガーの人でも、みんな共通点を持っていらっしゃるのです。

どういう共通点を持っていらっしゃるかと言うと、中枢神経系統の**一極集中的な機能**、一極集中的な能力は、たいてい皆さん高いものを持っていらっしゃると思います。

医学の領域では機能という言い方をします。能力というふうに教育の場では言うかもしれませんが。得意な部分があるのです。良くできる部分があるのです。普通の人よりも得意な部分があったりします。苦手な部分が様々にあっても、一極集中的なところが良く出来るのですね。だんだんにこれはご案内して行きます。

同時総合機能的なことになると出来ないのです。これも、いろんな程度に、出来ないのです。個人差がありますよ。個人差を持ちながら、同時総合的なことになると出来ない。ギャップがあるのです。一人の人の中に、個人の中の能力にあっちこっちギャップがある、まあ、落差があるとこう申し上げていいでしょうか。

一極集中的なことは良くできるのです。小さな例を挙げますと、走ることならば早い子もいます。もちろん発達障がいの子どもはみんな早いというわけではありません。一般の人たちにも早い人も遅い人もいるように、走ることが早い人がいるのですけれども、そうすると運動神経が良いかということ簡単にそう言えないのです。短距離でも長距離でも走ることなら早いのです。ところが三段跳びが出来ません。走るの早いんです。手足の運動にどこにも支障がないのです、運動マヒというようなものは。だけど跳び箱のようなことをやろうとしたら非常に下手です、発達障がいの人は。

助走をつけてきます。踏み切り板をしっかりと見据えて、そこで踏み切ります。踏み切った時には、飛び跳ねる方向は、より高くより前方にといくつかの要素が合わさってくるわけですね。

走ってくる、踏み切る、飛び上がる、飛び上がる方向はより高くより前方に。こういうことがあるわけです。その瞬間に、両手を跳び箱の背に付くわけです。両手をパッと付く。付く直前には両足を広げているのです。かと思ったら、もう次の瞬間には、向こう側に着地をするわけです、マットの上へ。着地をするときには両足を閉じていなさい。

こんなこと、いちいち細かくくどくどと説明して跳び箱をするわけではありません。が、けれども跳び箱を飛ぶということはそういうことをしているわけです、簡単に申し上げても。こういう一連の動作を、総合的に連続的に自分でまとめている。いわゆる運動神経の良い人達は、お手本をちょっと見て、一回二回してみるかもしれないですが、直ぐ出来るようになっていく。

このようなことを合わせてやるのが、同時総合機能ですね。このいくつもの動作を、すべての脳の働きを合わせてやるのが苦手なのです。いろんなことを一緒くたにやるのが苦手なのです。

一つの事に集中するのはとても得意です。いろんな意味で得意なのです。

本当は動作だけではないのですよ、苦手なのは。これからお話していきますが。

いろんなことを合わせてやるのが“良い”と単純にそんなことは言えませんよ。結婚しているのに相手の奥さんとか旦那さんとか、他の人にきよろきよろしている、合わせてあれこれやっている。そんなのは長所でも何でもありませんが、世の中にはよくいます。どういう総合機能か、何人もの奥さんを持っているとかね。まあ私はそんなにたくさんの人を知っているわけではありませんが、芸能界の人などは、本当に私は知らなすぎるほど知らないのですが、なんとなく石田純一さんなんか同時総合機能が上手だなあと、こういうようなことを噂で聞いたりしています。お会いしたことがありませんよ、

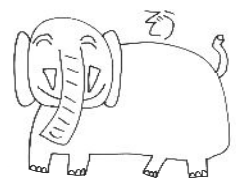
だから正しいか正しくないか分かりませんよ。発達障がいではないですよ、石田純一さんは絶対に違う。わかりましょう？

トランポリンならピョンピョンと飛び跳ねることをあんなに上手に出来るけど、綱を持って縄跳びが出来るかという、これが非常に難しい。この難しさは、普通の難しさの度合いを超えます。

ところがトランポリンなら長時間とても上手に飛び跳ねている。こういう子どもは珍しくありません。いろんなことで、同時総合機能となると下手になるのです。単純な暗記型の勉強ならばとても上手に出来るのですが、それをいろんなやり方で色々な方向に応用していくことになると苦手な人が多いのです。

文字をたくさんよく知っているのに、そして、おしゃべりも普通に出来ているように見えるのに作文はとってもダメ、とこういうことです。でこぼこ・不均衡さがあるのが発達障がいのあるお子さんです。

これは一般論です。専門的には同時総合機能とか総合機能とか、こう言われますが、それが苦手なのです。



2. 統合機能不全

良き理解者に

横浜に、クラスの生徒全員にちゃんと跳び箱を飛べるようにしてやろうと熱心に取り組みました先生が、私の知る限り何人かいらっしやる。最近、そういう間違えをする先生はいないかもしれませんが、その先生に体操を指導された生徒が、私が知るだけでも少なくとも3人4人は不登校になりました。学校に行けなくなってしまいました。

そんなひどいことをですよ、無理強いして、と私は思います。跳び箱なんかクラスの全員が飛べるようにする必要はないのですよ。中には簡単に飛ぶような得意な好きな子がいるでしょうけど、発達障がいの子どもにしてみれば一番苦手なことですよ。

先生は悪意ではないのですね。ある意味では善意で、みんなと同じことが同じようにできるようにと…。

みんなと同じことが同じように出来るようにという教育が最悪ですよ、発達障がいの人には、このことをしっかり頭の中に置いて下さい。得意なことをやればいいのです。弱点を修正するのではないのですよ。もっと言いますと、修正できません。

得意な所を、長所を伸ばしてあげるようにする。得意な所がうまく伸ばしてもらえりような環境に置かれた人は、普通の子ども、普通の人達よりも伸びていきます。

一芸に秀でている人を、何人も存じ上げています。過去の歴史を振り返っても、大勢いらっしやるそうです。ニュートンがそうであった、モーツァルトがそうであった、アインシュタインがそうであった、最近、ビル・ゲイツさんがそうで、アスペルガーと言われますね。

で、多分この人達は、ある意味一芸に秀でているのですよね。ある狭い領域の高度な専門家なのです。そのかわり、どんなに弱く駄目な所があったとしても、そういうことを周りの人達が皆さんカバーしてこられたわけです。

お会いしてもいない人達を単純にどうのこうのと申し上げるつもりはありません。でも私は発達障がいの人達が好きですから決して否定的な意味でこういう事を申し上げているのではない、とご理解頂くといいかと思うのですが、最近岡本太郎さんの半生を描いたテレビの番組がありまして、それとなく拝見していました。やっぱり発達障がい寄りの方じゃないでしょうか、これからお話していきますけれど、視覚的な世界に強い…。

良き理解者がいらっしやいましたね、としこさんとおっしゃる。結婚していたわけじゃないけれど、結婚していた以上に親しいってというか、結婚していても疎遠な夫婦っていますが、あの方達は並の結婚以上に理解しあって、お似合いであって、岡本太郎さんは、一人では生きていくことがお出来にならなかったのじゃないかな、というふうに思います。おやりになっていることが一芸に秀でている。音楽もお出来になったそうですね。音楽と、絵画って言いましょうか造形って言いましょうか。発達障がいと断定申し上げたわけじゃありません。だけど、岡本太郎さんが発達障がいであったにしろなかったにしろ、岡本さんの価値がそれによって左右されるものでは全くありませんから安心してこういう事を申し上げているのです。

視覚

統合機能が弱いのです。あれもこれも一緒にやるのが弱いのです。

まず視覚的なこと、目でパッと見たことを見た通りに理解する、覚える、見たら分かるとい

う事に関して、能力が高いです。非常に高いのです。視覚的な記憶っていうのは、普通の人より能力が高いのです。だからジグソーパズルが上手なわけでしょう？ ブロックを組み合わせて遊ぶのが、強いわけですね。

具体的、個別的、規則的、法則的なこと

具体的な事、とってもよくお出来になります。個別的な事も、能力が高いのです。こうであれば必ずこうです、ということとはとても能力が高いのです。規則・法則性、ですね。

一般社会ではしばしば、こうであっても必ずこうでは無くて、それがどういう意味か分からないというようなことが多いのです。その場の空気、その時の状況、文脈、前後関係によって、それにはいろんな意味合いがある、というようなことが、発達障がいの方は非常に難しいわけですね。

個別的な事、歴史の勉強ならば「よくもこんなに詳しく知っているな」と言うほど覚えている人もいます。大化の改新は？と言われたら何年、フランス革命は？と言われたら何年っていうのは動かしがたい個別的な具体的な事実で、そういうものは強いですね。ですから歴史がとても得意であるとか、考古学が得意になられたとか、いろんな方が決して珍しくはありません。

それから、大きくなって行って高機能の人の場合には、規則や法則がはっきりしていると、その分野が得意ですね。その規則・法則を掴んでしまわれたら、得意になるわけです。だから数学や物理などがよく出来る、という高機能発達障がいの方はしばしばいらっしゃいます。

昨年3月に東京大学で発達障がい支援室というのが出来ましたというのを新聞で小さな記事でしたが読んで、「あー、なるほどな」と思ったのです。それはもう、東大生の中にも何人も

いると思いますね。けれども応用問題とかいろんなことでやっぱり苦しんでいらっしゃるでしょうし、大学を卒業した後、就職をしていかれるっていう時に、大学が多大な援助っていうか協力っていうか、色々なことをなさる必要があるわけですね。

私の大学にもアスペルガー症候群の人が何人もいらっしゃいます。視覚的な情報が強いので、話し言葉だけの講義を聞くっていうのはとても苦手です。講義を聞きながらノートをとるなんてことは、さらに困難です。それは同時統合機能ですからね。

ですから、私はそういう学生が何人もいるって事が分かってきましたから、他の教職員の皆さんにも色々協力を求めて行って、教職員全体での勉強会を何度かやりました。そして、話し言葉だけの講義は極力避けて、教科書をしっかり設定するとか、あるいは講義をしょうと申し上げました。今日皆さんにお配りしたようなノートを作って学生にお配りして、講義をしました。私は圧倒的に多くの時間をこういう講義ノートを作っているのです。

発達障がいの学生だけに配るなんてことは出来ませんから、みんなに渡しました。発達障がいでない学生にも評判が良かったですよ。講義ノートを配って、講義を致しましてね。必ずやりますから。ただ、一つの科目だけは、自分自身が分担執筆をしているある本をそのまま教科書に使いましたが。

視覚的な情報が強いのです。文字から学ぶ力は、話し言葉なんかから学ぶより遙かに能力が高いです。文字から学ぶ能力が高い。しかも、記憶がいいですね。記憶がいいです。

こういうことを知って下さい。これがこの子達、この人達の特性です。

ある手紙

出来るだけ具体的にご案内したいと思いますから申し上げますが、去年の春に京都大学に合格したというある学生から手紙を貰ったのです。知らない人でした。

で、どういうことかと申しますと、

「それまで自分は様々に生き辛さを感じていて、大学に入ってゼミナールが決まって、そのゼミナールの担当の先生がとっても優しい良い先生に思えたので、思い切って自分の生き辛さを相談してみたのです」

「そうしたら、その先生はあるクリニックを紹介して下さい、そこに行きましたら『アスペルガーですね』って言われたのです」

「嬉しかったです」

(その学生さんが書いてらっしゃる。「嬉しかった」って)

「どうしてもっと早くそれを教えてくれる人がいなかったのか」

「自分が怠けて、努力をしないから色々苦しかったり大変なんじゃないのだ」

「アスペルガーという持って生まれた特性のために色々苦労があったのだなということが分かって、とっても嬉しかった」

「自分のことを、もっと早く教えて欲しかった」と、こうお書きになっているのです。

そして、

「アスペルガーの事をより良く知りたいと思いましたから、クリニックの帰りに本屋さんに寄って、アスペルガーの本を探したら、佐々木先生、あなたのお書きになった本が真っ先に目に飛び込んできた」

と、こうおっしゃった。書棚をご覧になったんでしょいうね。

「それで、それを買いました」

ここらへんも特徴になりますよ。ふつう一般の人でしたら、たいてい何冊かの本を、手に取って見ながら読み比べる。ザーッとでも、見比

べるかしてから買われませんか？ この辺がシングルフォーカス、モノトラック、一極集中的です。独特ですね。

「最初に目についたのが佐々木さんの本だった、だからそれを買いました」

と、こうおっしゃる。

「家へ帰って急いで読みました。読んでみたら、佐々木先生はその本に私の事ばかり書いてらっしゃる」

と、こういうふうに書いていらっしゃる。

これもまたアスペルガー、発達障がいの人の特徴です。「佐々木さん、あなたのお書きになった本に私はよく当てはまりました」というのではない。「私のことばかりに書いてある」とおっしゃるのです。

悪意でとか善意とかそんなことではなくて、率直に感じたままを書いていらっしゃる。

そして

「自分はこうだった、っていうのがよく分かった」

「視覚的な世界に強い、話し言葉を聞くより文字が強い、絵が強いといろんな事を先生は書いてらっしゃる。本当にその通りだ」

と、ご自分で手紙に書いて下さったのです。

「中学の頃からずっと色々大変だったけれども、高等学校が大変でした。例えば、授業を、他の生徒は30分も40分も、どうして話し言葉を聞き続けていられるのかが自分にはどうしても分からなかった」

「自分は、10分、15分でどんなに頑張っても根気が切れるみたいになる。そして一休みしてからまた講義に戻って行くと、それまで聞いていた多くのことが大抵消えてしまう」

と、こう言っていたらっしゃる。

さらに、

「クラスの仲間達は、見ていると話し言葉を聞きながらノートを取っているのがいる。こんな事は自分には到底出来ない。こういうことが自

分には出来ないのです」

話し言葉を聞きながらノートを取るのは、同時統合機能ですね。

「それで、参考書とか教科書を一生懸命読んで勉強に追いついていこうと致しました。」

「ところが、そこでみんなと自分に違いがあることに気づきました。そして、それがどうしてなのかが、佐々木先生の本を読んで初めて分かりました」

「クラスの仲間達は、折角読んだ教科書や参考書を特に参考書の方を、どうして忘れてしまうんだろう。これが分からなかった。同じモノと一緒に読んでいたじゃない。あそこに書いてあって、こうだったじゃない。それなのに、みんなはせっかく読んだ参考書の中の公式が思い浮かばないって言うのです」

と。

発達障がいの方は、目で見えたモノは、見たままで覚えているのです。能力の個人差が大きいわけです。この青年からすると、みんなはどうして折角読んだ本の内容を忘れてしまうのか。みんなから言えば、どうして話し言葉を聞いてノートが取れないのか、どうして話し言葉を覚えていられないのか、とこういうことです。この違いが、発達障がいの人と、そうでない人との、典型的な違いです。

ですから、「高等学校で毎年ある中間試験とか期末試験とかで、どんなに頑張っても中の上くらいの成績しか取れないのです」って。ところが「学外の試験が大好きだった」って言うんです。全国一定学力テストみたいのになりますとね、教室の先生がしゃべったことよりもはるかに参考書とかそういうものを読んで勉強した方が力になるでしょう？

で、

「自分はいつもそっちになると全校で一番だった」

「そして、全国平均の中でも上位に必ずと言っ

ていい位いつも10%以内に入りました。そうすると、学校の先生には叱られました。お前は どうして学校の勉強をバカにするのか、と」

バカになんかしているのではないのですよ。先生の方が理解出来ていないだけです。ご本人も自分が発達障がいだっていうことを、ちゃんと理解していないから、それなりに苦しんで努力をして、そういうことになっているわけです。

「外の試験がこんなに出来るのに、学校の試験になると、お前は本当にバカにしている、と言われる。言われてもどうしようもなかったんです。でもこのたび良く分かりました。どうして もっと、わたしはこれこれこうだから、というふうに教えられてこなかったか、教えられなかったかって、残念に思います」

「でも、もう、過去は過去で、これからですから。大学に入って、ゼミナールの先生は理解が良いから、その先生と協力して話し合っ、これからはちゃんと安心して生きていきたい」

と、こうおっしゃった。「安心して」とおっしゃるのですよ。発達障がいの方は、自分が発達障がいだって事を言われてから安心するのですよね？ 本人が怠けているわけじゃないでしょう？ 努力をしないから出来ないわけじゃないでしょう？ あえて申し上げれば努力しなくたって、出来るところは出来るのです。

それで、こういうことを理解してくれる人の中で育てられないといけないのですよ。こういうことをちゃんと理解してくださる先生とか、クラスメイトとか。必要な時には地域社会とか、ですね。そういう人達に恵まれて育っていられるっていうのが、一番幸福なのです。

違い

想像力とか応用力とか、抽象的なこととか、比喩的なこととか、こういうことがなかなか出来ないのです。おわかり頂けますか？ もちろん

ん個人差がありますし、いろんなケースがあります。だけれども、そういうのはとても苦手です。

そうしますと、空気を読むなんて事は、本当に出来ないのですよ。相手の気持ちとか、相手の立場を推測する、理解するという事は、出来ないのです。

「相手が自分と違うことを考えたり感じたりしているっていうことを理解できない。」と、何人もの少年や青年や大人になった人達がおっしゃいます。

私たちは、余程のことがない限り「相手は大抵違うことを思っていますよ、違ったことを感じていますよ」ということが普通じゃないですか。夫婦という間だって違うことを感じたり考えたりいろいろしているでしょう？それが当たり前くらいに私たちは自然に思っていますけれど、彼らにはそういうことが考えられないのです。

「どのように違うの？」「じゃあ何故違うの？」これは、更に分からない。発達障がいのある人は色々なことで苦労していらっしゃるっていうことを、どうぞ分かってあげて下さい。

相手が自分と違うことを感じたり考えたりしている。それが分からない。相手の立場とか、相手の気持ちとか、分かるはずがないのですよね。

その、分かる程度、分からない程度すら個人差があります。発達障がいに個人差があります。けれども、そうなってくると、こちらが分かってあげなかったら…。この人達、この子達がおかしいというより、相手からこちらを見て、こちらがおかしいのです。

そういうことになるわけでしょう？

TEACCH プログラムが世界中に伝えられて、応用・実践されて、何故あんなに大きな成果を挙げているか。それは、こういうことを分かっ

て先生たちが教育してらっしゃるわけでしょう？

こういうことを分かって、こういう青年をいろんな職場が採用しているわけでしょう？ こういうことを分かった保護者が、育てていらっしゃるわけでしょう？

ですから、ノースカロライナを訪問してご覧になればよく分かります。今日この勉強会の主催のお一人の新井先生とご一緒にノースカロライナに行きましたけれども、彼はよく知っているといるのですが、ノースカロライナに行くと、どうして自閉症の人がこんなに穏やかに平穏な顔をしているのか。とりわけ保護者の人もそうです、穏やかです。

それは、この子達のことを良く理解出来るからです。そして、理解出来る人達に囲まれているからです。

子どもが学校でいろんなことが、仮にあったとしても、先生が対応をきちとなさる。まして、保護者の教育がどうの、家庭での躾がどうの、なんてことを先生は考えてはいませんからね。だから、みんなが穏やかに・安定して・学び・生活が出来・働けるって、こういうことになっていくわけでありませう。

空気を読む

空気を読む。難しいですよ。難しいですよ？空気を読む。

こういう少年がいるのです。横浜です。学校で漢字の書き取りがとてもよく出来る。算数の計算ならば、誰よりも早い。漢字も計算も先生よりも早いのです。正確で。そういうことが良く出来るって子がいるのです。

すべての発達障がいの子がそうだって言うのではなくて、その少年はそれが良く出来るのですね。

それである意味、仲間達からは「何ちゃん

勉強が出来る」とこういうことになるわけですね。文字をよく知っている、計算が速い、他にもあれこれ出来る事があるのでしょうか。歴史が得意だとか、地理が得意とかね。

その少年に、ある時お父さんがおっしゃった。「お前もそろそろ、場の空気を読めるようにならないと駄目だよ」

悪意なんか何もないのです。むしろ、息子の事を思いやってでしょう。

その子は、小さい時はリハビリセンターに通っていたのです。能力が高くなって、リハビリセンターには殆ど来てないのですが、お母さんが、折に触れて相談があると見えているのです。

ある時、お母さんがリハビリテーションセンターにお見えになって、「こんなことがありました」おっしゃったのです。

「夫が息子に、空気を読める子になりなさい、って言いました。そしたら子どもは驚いたんです。お父さんが頭がおかしくなった、と思ったんです。それで、言ったのです。『お父さん、空気なんか読んじゃ駄目です。空気は吸いなさい』って」

分かりますよ、この子の気持ちが。空気は吸いなさい。お父さん、読むのは字でしょう。字を読んで下さい。お父さんが字を読まなくなると、空気ばかり読もうとするようになったら、周り中から変なふうに思われるのではないかって、この子は心配したのです。能力が高い子です。気持ちが、分かりますねえ。読むのは字ですよ。だけど私たちは、空気を読むなんて事を比喩的に、いくらもそういうことを言うでしょう？

北関東で、これは話を聞いただけのことでありますが、少年野球チームのコーチか監督かなんかをなさっているお父さんがいらして、ご自分のお子さんをね、その野球のクラブに入れてらっしゃる。

この子がレギュラーになって活躍する、そんなことはありえないけど、みんなの中に入れてもらってと、お父さん思われたのでしょうか。そして、野球のチームの一員として、走ったりキャッチボールをしたり色々なさっているでしょう。

ある時、他のコーチの人が選手みんなに向かって「ボールから目を離すな」ってなことをおっしゃったのだそうです。そしたらその子は、ボールを握りしめて目に押しつけているっていうわけですよ。

目とボールを離しちゃいけないわけです。わかりましょう、この子達の言葉の意味の取り方。

「ジーンとボールを見続けていなさい」と、こういうことですよ、言っているのは。それを、「ボールから目を離すな」と言ったりするので。こういう比喩的なこと、「空気を読む」にしろなんにしろ、日常生活にこういう比喩的な言葉やなんか、様々ありますよ。

算数の計算は素早い、漢字の書き取りは誰よりも知っているっていうことがありながら、学校でクラスメイト達との関係で折に触れていろんな事つまづく。周りが分かってくれていなかったら、「彼は、なんてことを言うんだ」と思われてしまうでしょう。周りがきちんと理解しなかったら、この子達はそういういろんな場で安定した適応をしていくことは非常に困難ですから、分かってあげて下さい、いろんな事をね。

皆さんが分かってあげて下さって、周りの人々に理解者を増やしていく。このことを一生懸命 TEACCH はします。一生懸命しますよ。

この子達が頑張るって周りの人達の世界に合わせていく能力を身につけさせる、なんてことはやるとしても“最小限”です。というより、そう成らないのですからね。そんな無理なことをしても。

あえて言えば、疲れ果ててしまう、傷つき果ててしまう。そういうことであります。

一点集中、深い関心

狭いところに、強い大きい興味、関心、認識が向かうでしょう？ 狭いところにこの子達の深い関心が向かいますね。

今日、チラシをね、少しお持ちすれば良かったかなって思ったりもするのですが、でも、こんなに大勢の方の分はありませんから…。

朝日新聞厚生文化事業団ってところで、『自閉症の人が見ている世界』というDVDを作りました。自閉症のご本人、それから子ども、そして保護者の方。13人の方13家族と言いましょうか、その協力を得て、DVDを作りました。大変好評です。私がこうやってご案内していることを、当事者が当事者の言葉で語ってくれるわけです。ご関心がある方はね、お求め頂いたり見て頂ければ、というふうに思います。

朝日新聞厚生文化事業団・DVD・3巻のセット、になっています。

こっちから相手を見ている事と、相手がこちらを見ている事とは、全然違います。その中でもはっきりおっしゃっている人がいます、何人も。

「自分は関心・興味は狭いです。だけど深いです」

と、こうおっしゃる。

本当にその通りです。だから一芸に秀でている人が出るわけでしょう？ 一芸に秀でている人が。あるいは、この人たちにとって得意な領域の高度な専門家になっていかれる。

もうこれは、とっても重要なことです。

そのように子育てになればいいのです。そのね、社会的に名を遂げるほど高度の専門家になる人と、そうでない人がいるでしょう。が、必ず高度の専門家にはなりますよ、必ず。

仕事場で「何君にこの事は任せておけば安心だ」「この事は良く出来るね」という評価を得ている青年がたくさんいますよ。でも、何もかもさせるって考えたら、コレはもう絶対に駄目です。

普通の人みんなこれだけの一連の仕事をするんだから、ここまでみんなと同じようにやってくれなくちゃ困る、なんてことをしたら、殆どの方は、そこではちゃんと働けないですね。「そんなことあれもこれもすることないですよ、ここの所をね、しっかりやってくれればいいですよ」という、その選択の仕方、選び方です。そして、仕事の設定を作り直して頂いて「ここを頑張ってくださいよ」とお願いするのです。

高い能力を、必ず発揮して下さいますよ。そういう意味で、一芸に秀でているということで、みんなと同じなんてことは駄目です。

就職して成果を上げない、必ず大きな失敗をするというのは「営業」です。営業の仕事に就いて、自閉症の人発達障がいの方が成果を上げたなんて例を、見たことがありません。傷付いて傷付いて、退職されて、不幸なことになるのですからね。営業的な仕事なんか、絶対させないで下さい。

こんなに大勢の方がおいでになると発達障がいの要素を持った方が当然いらっしゃるだろう、と私は勝手に想像申し上げています。私自身にも発達障がいの要素があります。

そういうことを自分で自覚する前に、私は高等学校を卒業してから大学に入る前の6年間、信用金庫に努めていたことがあるのです。高田馬場の直ぐ駅前に東京三協信用金庫というのがあります。そこに勤めておりました。新人は、特に高等学校卒業の新人は最初の一年間はお得意様係、いわば営業ですね、そういうことをするという決まりがあったのです。

私は最悪でした、成績が。信用金庫始まって

以来の不成績だって言われました。で、不成績どころかゼロでしたから、成績が、一つも新しい契約が取れなかったのです。それで、一年持たなかったのです。

例外的特例として内勤に替わりました。内勤になって帳簿の管理をするようになったら、これはよく出来ました。退職した時に、私がやっていた仕事を二人半から三人近くの人が引き継ぐことになりました。こんなに一人でやっていたのか、と今度は驚かれました。一人でこんなにやっていた人はいなかった、と後で言われました。以来、その信用金庫の理事長は、やっぱり人間は適材適所で使わなければいけない、と本気で取り組まれたそうです。一律に、新人が入ってきたらみんな営業をするだの何をするだのって、こんな無駄なことをしちゃいけないんだ、となったそうであります。

私は、自分自身に発達障がいのある要素があると分かっているのです。私には子どもが3人いて、それぞれがそれぞれに、いろんな程度に発達障がいの要素があって、ほぼ完全にと行っていいくらい発達障がいの特性を持たないのは家内です。家内は発達障がいの的ではないのです。悪く言うつもりはありませんけど、極めて平凡です。平凡が悪いというのではないのですよ。勘違いなさらないで下さい。何もかも、実にバランス良くやってくれます。家庭の中では、日々なすべき仕事がたくさんありますよね。家内は、なすべき順序にその仕事が出来ると。私達発達障がいの要素がいろんな程度にある者から見ると、「よく出来るなあ」と心から思います。仕事というのは、自ずとやるべき順序があるでしょう？ この仕事が終わってあの仕事をするとか、あの仕事が終わってどうだとか、そんなふうのできるのです、家内は。

では私はどうかと言えば、もうお分かりになるでしょう？ 出来る事からするのです。出来る事からするというのは、まだ聞こえはいいの

だそうです、家内に言わせると、「やりたいことからやっている」となるのです。

富士山の頂上にいる人が典型的な重い発達障がいの人だと仮にそうしますと、八合目、五合目、三合目、富士山の裾は軽くなっていく。そうして一般の人との間に連続性をもってずーっと繋がっている。こんなふうに家で比喩的なおしゃべりをしていて、「僕は三合目くらいかな」って言いますとね、「とんでもない五合目以上だ」とこう言われます。

それはそれとして、発達障がいが悪いとか良いとかということではありません。ニュートンやモーツァルトのようになれなくとも、発達障がいのお子さんがご家族や身内にいらしたら、もしかしてもしかするかも、というような期待を持ちながら上手にお育て下さい。

弱点を修正？

弱点を修正しようなんて絶対しないであげて下さい。出来ないのですから。

治そうなんて絶対しないで下さい。発達障がい治った人なんて、世界中一人もいないのですから。

病気ではないのですから治すのではないのです。その個性・特性は消えないのです。消えなくちゃいけないとうわけではないでしょう？ それはそれでいいではないですか。

どんないいところがあるかなって、こっちを上手に探してみてください。

こういうところが得意なはずだ、なんて決めつけしないであげて下さい。本人がちゃんと私たちに示してくれるまで、待っていてあげて下さい。

これが大切であります。

狭いところに深い強い関心を持つ。だから一芸に秀でるのです。ある領域の高度な専門家に

もなり得るのです。それが社会的に高度に名を遂げてどうこうというふうな幸運・偶然もありますけれども、そうでなくても、家庭の中で、あの子がいてくれるならここは任せよう、職場でもあの青年がいてくれるから、ここは彼に任せておけばいいというふうになっているところが、たくさんありますよ。

そのように、周りが理解して、必要なところは改めて構造を機構を仕組みを変えてでも、その人を取り込んで頂きたい、とこう思います。

アメリカのノースカロライナに行きますと、図書館で書籍の整理をしている発達障がいの人、必ずいますね。私はノースカロライナ州の図書館を数箇所訪問したことがあります。必ず、発達障がいの人が働いています。しかも、高い評価を得ています。例えば、ノースカロライナ大学の図書館に行くと、アスペルガー症候群の自閉症の人が働いています。発達障がいだからと特別措置を講ぜられて働いているのではないのです。

「そんなことに関係なく、彼は本学の図書館の優良職員に選ばれ、表彰されているのです」と。そうだろうと思います。他の人がかなわないほど彼には能力があるのですから。書物を整理していくその秩序とか、どの書物がどのようなどころにあるとか、パソコンが得意ですから、新しい書物がどのように入ってどうなって…などなど。

以前、私はある本の中に自閉症の人は図書館の職員に向いています、と書いたことがあるのです。そうしましたら、ある地方の図書館の司書の方から出版社にクレームのような手紙が届いたのです。

日本の図書館では自閉症の人は不適切だと思う、と書いてありました。決して悪意ではありませんが、

「日本の図書館では職員全員が接客の仕事を

しなくてはいけない。だから、日本の図書館で働くのはたいへん不向きだと思う」

とおっしゃるのです。

どうぞ返事しましょうかと編集部の方がおっしゃったので、それでは私が書かせていただこうと思いました。

得意なところを人並み以上に、あるいは人並みでもいい、もっと言えば人並み以下であったって、得意なところをやってもらえたらそれでいいじゃないですか。苦手なところはそういうことがよくできる人がカバーすればいいでしょう。これくらいの譲り合い助け合い協力の仕方が出来ないなんて、とっても悲しいと思う。

こう、私からお返事をしたいと申しましたら、「編集部に来たのでとりあえず編集部でお返事したい」とおっしゃいました。

それで私は、「次にもう一度クレームのお手紙が来たらこんどは私に必ず返事をさせて下さい」とこう言いました。「ではそういう旨書き添えておきます」とこう言われて編集部がお返事を書いて下さったらしいのです。そしたら、そのあとは何も手紙は来てないそうであります。どうなっているかわかりません。その方が、納得したのかしないまま黙っていらっしゃるのか分かりません。

悲しいと思いませんか、皆さん。弱点・欠点のほうをあげつらうのですよ、へたすると。ノースカロライナでは、接客の仕事は苦手だって分かっているのだからさせませんよ。その代わりに、君はこういうことに、書物の整理、秩序立った整理が誰よりも優れているのだからここで君の大きな力を発揮してほしい、というふうにするでしょう？ 全ての私の知っている範囲の図書館で発達障がいの人が一人二人働いています。いい仕事をしてくれているのです。みんな喜んでいらっしゃいました。どこでも喜ばれて

います。歓迎されていました。

一律同じ

みんな一律・同じ。好きですねえ、集団が。なんでも一律。

ノースカロライナはその子に合わせて教育するのです。だから、IQが正常だからなにもかも普通学級で教育する、こんな無謀な教育は絶対しない。IQが正常だということは、みんなと同じように出来ることもあるし、それ以上にみんなより出来る科目もあります。だけど、みんなより出来ない科目もあるでしょう。それをどうするのですか？ ノースカロライナの人には考えられないそうです、何もかもみんなと一緒にしておいて、そうして放って置くということですね。

私たちはみんな一緒、一律が好きですよ。私はいつもね、それを悲しさを持って見つめています。

一斉が好きだと思ふのは、例えば象徴的なのは女子高校生の服装ですよ。どうしてみんな一緒にあんな恰好しているのかって思います。スカートが長くなったり短くなったり、ルーズソックスを穿いたと思ったらみんなが脱ぎ始めたり。よく全国あんなに行きわたるものだな、と思います。ひと頃どこへ行ってもみんなルーズソックスを穿いていた時代があったのですよ。ちょうどいいたわみを作るのにいろいろ苦労しているという場面を見たことがあるのです。そんなに苦労しながら穿かなくてもいいのに、と思ったことがあるのです。そうしたら今度は、真冬になって脱いでいるのです。寒い冬こそ穿かなくちゃ、と思うのですが。

例えばそういうふうなこと一つとっても、一斉が好きですねえ。みんな一律同じことが好きですね。

発達障がいの子どもは辛いですよ。一斉を重

んじるところ、みんな同じことを一斉にやるというところ。それはとっても少数派ですからね。とってもひどいことになってしまう。

皆さんが守ってあげてください。

「こんなことをうちの子にはやらせないで下さい。こういうことが良く出来ますから、みんなでお手伝して下さい」と。

予期しないこと

予期しないことが起きることをとても恐れるでしょう？この人たちはね。スケジュールにないこと、急に変わることを、とってもこの人たちは嫌います。あるいは、スケジュールを伝えておいて途中で変更するってことを、とても嫌います。しょうがないですよ、そういう特性ですから。

変更せざるを得ない時、何々しようと思ったけれど中止になったとか。それは出来るだけ早く、早くそのことを伝えてあげて欲しいと思います。それはどういうことかと言うと、急に言われると気持ちがそのように切り替わらないのだそうです。切り替わらないというのは、脳の中の神経の回路が繋がらないということなのです。外からはそれが見えません。神経の回路が繋がるには、時間がかかるのです。よく分かります、私はこういう人達に接し続けてよく分かります。だから予定の変更とか、新たな予定を作り直すとかいろんな事があった時には、出来るだけ早く予告をしてあげてください。そういうことが大切です。

私たちはいろんな程度に、臨機応変にぱっぱっぱっと予定を変更したり修正したり中止にしたり何かしたりということを行います。私たちのテンポで一般に発達障がいの人が出来るというのは稀です。殆どは、本当に苦しいのです。混乱してしまうのです。

時間を掛けてあげて、「こうしまししょうう」と伝えてあげて下さい。この人たちには、予期しないことがとっても辛いのです。

肯定が意味になる

何事も肯定的に伝えてあげると、“意味になり易い”のです。「何ちゃん、何くん、何さん、こうしなさい」と肯定的に伝えるのです。「そうしてはいけません、ダメです」という否定的な伝え方というのは、意味を失うのです。どうしていいか、訳が分からなくなるのです。

「こうしてはいけません」ということを曖昧に言うのではなくて、「こうしなさい」ということを分かり易く伝えるのです。「こうしてはいけません」と言われても、「ダメ」と言われているのと同じで、それではどうしたらいいのかが分かりません。

私は町田で近所の教室をお借りして勉強会をしています。発達障がいのことをテーマに勉強している時に、当事者の方が出席なさることがあります。ある時ある国立大学の大学院の修士課程を卒業して、大きな企業が経営している研究所にお勤めになっていて、いい仕事をしていらっしゃるという方が出席されました。その方は、周りの人との関係で不都合が生じて、いろいろ苦しんでいらっしゃった。

勉強会の中で、

「こうしなさい、というのは分かるけれど、こうしてはいけません、と言うのは混乱させます。とっても苦痛を感じるのです」

と、私が言いましたら、「こうしてはいけません」というのがどんなに苦痛であるか、「こうしなさい」ならどんなによく分かって安心か、ということに関して彼が教えてくれたのです。

彼は、リストラされるかもしれないという窮地に立たされていたのでしよううね。

「たとえば僕のような場合、もう我が社に来てはいけません、と言われたら僕はパニックになります」

(彼はそういう瀬戸際にいるのですね。)

「来てはいけません、と否定的に言われたら、僕はパニックになりそうです。だけど、どこの町のあちらの支社とか、あるいは本社とか、あるいは何課とか、別の課、別の支社に行っておいて下さい、とこう言われたのならずっと安心です」

否定的に言われるのではなく肯定的に言われると、安心なのです。

小さな子どもの保育や教育をしていらっしゃる保育園や幼稚園の先生との勉強会で、よく申し上げます。「何ちゃん水遊びをやめなさい」という否定的な言い方で言うと、子ども達はたいいその場で泣いたり癇癪を起こしたり、時にはパニックみたいになることもあるでしょう？我がままな子だとかこだわりの強い子だとか躰けが出来ていない子だとかと、昔はこの子どもその家族も誤解をされていました。

そうじゃないのです。「水遊びをやめなさい」と言われたら、どうしていいか分からなくなるのですよ、この子たちは。一般的な平均的な子ども達は、「水遊びをやめなさい」と言われたら、直ぐに「じゃあブランコでもしょう」とか「砂場に行ってあそぼう」とかパッと切り替わるのです。この子ども達は、この切り替わりが遅いわけでしょう？だから、その場で混乱するわけです。

その青年は、こう言ったのです。

「あっちこっちの職場から引く手あまたの人がいたら、安心ですよ。ここを辞めさせられたら、じゃあ、あっちの会社に行こう、こっちの研究所に行こう、といくつもの会社の中から選ぶことを考えればいい。そういうことですよね」

そうですね。大人の世界に振り返ってみれば、そういうことですよね。「あちらの社に行って下

さい」「こちらの支社に行ってください」あるいは「この課ではなくて別のそっちの課に行ってください」ということです。

「何ちゃん水遊びやめなさい」

その言いつ放しが、この子達を一番苦しめるのですよ。

「水遊びやめなさい」と言ったら、「お部屋に入ってパズルで遊ぼうか?」「お部屋に入ってジグソーパズルをしよう」「ブロックで遊ぼう」とこの子が好きな別の遊びを具体的に明示してあげればいいのです。

それと同じで、「この会社のこの課には来週で終わりにして下さい、その後はあちらの会社のほうに、あちらの支社のほうに行ってください」とこう言われたらずっと安心です。そして頭のいい青年はね、見事に応えますよ。

子どもは、「ダメ」って言われただけでどんなに苦痛を感じるか。その苦痛と、「もうこの仕事はいけない」とピシヤリ言われたのと同じでしょう? 分かりやすい例ですよ。非常に具体的です。

具体的なことでないと、この人たちは分かりにくいのです。そういうことを教えてくれた青年がいるのです。お分かり頂けましょうか。

口数が…

言葉はだらだらとしゃべらない、というのが大切でしょう? 話し言葉をだらだらだらだら、あれもこれもこれもあれもって、いろんな事を言われ続けるっていうのは大嫌いですよ、この子達は。

「そうしてはいけません」って否定的なことを言われると、もっと混乱します。あれもこれもって言われると、非常に混乱します。

発達障がいの人達が、いろんな程度にですが

情緒的に非常に不安定な状態になっている時というのは、必ずと言っていいくらいその周りに口うるさい人がいます。間違えなくこれは言えます。

40 何年こういう仕事をしていてそういう事実がよく分かるようになりました。口数が多すぎる人が、周りにいます。そして、否定的な内容でものを教えようとしている。「こんなことをしちゃダメなんだよ」というふうにですね。そして同時にあれもこれも言う。「二つや三つのことを言ったって何でもない」と思うかもしれませんが、とんでもないのですよね。私たち、皆さんには、それが分からないのです。

一度にひとつ

発達障がい関係の人はどなたもご存知だと思いますが、ニキリンコさんという方がいらっしゃいます。アスペルガー症候群の人で能力の非常に高い方です。外国語を日本語に翻訳されるのが速いですね。高い能力を持っていらっしゃる。よく一緒に講演会をしたりシンポジウムをしたり致します。

ニキさんは、最初にお会いした頃

「自分に背中があるなんてことが分かったのは大きくなってからです」

とおっしゃった。びっくりしました。見えないものはそんなに意味が分からないのか、と思いました。

ニキさんは講演されながら、こういう面白い表現をされたのです。

「私の頭は先着ご一名様しか入りません」

「あれもこれも言われたって入りません。お客様お二人はお引き受けできません」

「映像による情報がとっっても入ってきやすいのです」

「映像による情報を頭がお受けしているときに、その物について誰かが解説してくれても、それ

は聞こえません。見ることと聴くことと同時に
は出来ませんから」

目に見えるものは分かり易い、とあんなに能力の
高い方がおっしゃる。実にすらすらと大勢の人の
前で一時間半も講演していらっしゃる、そんな
能力の高い人が、改めてそう言われる。びっく
りしますよね。

「講演は話すことに専念していればいいから
出来るのです」と言われる。

なるほど、と思いました。

「そのことが出ていってくれてから、今見て
いたものはこういうものですよ、と話し言葉で
説明して頂きたい」

それは、私たちの言葉に置き換えると、見る
ことをやめてから、そのあとで説明をして下さ
いということです。

凄いですね、同時に複数のことが出来ない
とおっしゃるのです。あんなに能力の高い方が
ですよ。出版社の方が驚かれるほど正確で速い
翻訳をされる方ですよ。「文字の世界だから」
って、こともなげにニキさんはおっしゃるけ
れど、そんなに出来るのかって思いますよね。出
来ることは出来るのです。

ニキさんと私の講演が終わって、今から少し
時間がありますから質問を頂きましょうという
ことになったのです。そうしたらニキさん、
直ぐ手をお挙げになって「質問は用紙に書いて
提出してください」とおっしゃったのです。意
味はよく分かりますね。手を挙げていろんな事
を質問されたら、それを追いかけて聞き届けて
いくことがどんなに大変か。それは普通の人
には分かりませんよ。あんなに見事なきちん
とした講演をなさるのに、どうして相手の話
でそんなに苦痛を感じるのかって、ふつうは
分からないのですよ。

ニキさんが、しっかりこうおっしゃった
のです。

「紙に書いて質問を提出して下さい」

ところが主催者の方が、

「紙に書いて提出して頂くほど時間がない
のです。だからやっぱり手を挙げてもらって…、
それもいくつもお受けできないと思うけど」
とおっしゃったのです。それをニキさんは不
承不承承諾されました。私が隣に並んで
いますから

「もし分かりにくい質問があったら私が
伝え直しますから」

とお伝えして、そうして質問を受ける
ことになりました。

そうしたらニキさんまたもう一度、
こうおっしゃいました。

「分かりました。では言葉で質問して
ください。だけど、質問の途中に、『えー』
とか『あー』とかは絶対言わないで
下さい」

スゴイですねえ、『えー』とか『あー』
とか意味不明の言葉を言われている間に、
折角それまで聞いて「こうだ」と思っ
たことが消えちゃうのですって。

こんなに能力の高い方が、こんなに大
変な世界に生きていらっしゃる。今まで
どれだけたくさんのお本を翻訳されたか。
そして、最近はお自分の体験を自分
で本にお書きにもなりましたよね。

発達障がいの人を理解して頂きたい
から、いろんな例を、具体的にご案内
しているのです。びっくりされるで
しょう？改めて。一時間半も講演
をよどみなくすらすらなさるの
ですよ。もちろんご本人は『えー』
も『あー』もおっしゃらない。
見事な講演ですよ。

その人が、

「相手の言うことを追いかけて
行って聞くことがとっても大変
です」

とおっしゃるのです。

話すことと聞くことが、こんなに
大きく解離している。聞く方は
ずっと下手ですが、読む方



は得意ですよ。

そういうことを、ご理解下さい。

3. 行動特性

この子達この人達は、自分のやり方で行動するのでしょう？ 自分のやり方でしか、生きていくことが出来ないでしょう？

だから周りが、自分のやり方が出来るような場面を作るように協力するわけです。ご家庭でも、学校でも、職場でも、社会でもそうです。

秋田の例ですが、TEACCHの勉強会を開いてきた人たちが、商店街の人たちの協力を得ている。言い方を替えれば、周りの人たちがこの人たちに協力をしているのです。

この人たちが買い物をし易いように、商店街が協力して下さっている。例えば、必要な時には筆談が出来るように。また、みんなが言葉を短く、内容をできるだけ具体的に、「こうしないで」ではなくて「こうして下さい」と伝える、等々です。

自分のやり方で行動するので、一般社会の常識は身に付きにくいのです。こんなことがこんなに出来るのに、どうしてこれが出来ないの？ というように、得意なことと不得意なこととの落差が、とても大きいのです。

例えば、さきほどの職場の青年でも、書籍の整理がこんなに見事に出来るのに、誰よりも出来るのに、接客はできない。

優れたもの非凡なもの、みんないろんな程度に持っていらっしゃるのです、発達障がいの子どもも人々も。だけど、一般の人たちと比べて、とても出来ないものを併せ持つのです。

この人たちへの養育や教育や支援や指導が下手な人ほど、弱点を治そうとします。治そうとしても治らないのです。あえて申し上げれば、人格をゆがめるといふ二次障がいを作っていく

ます。

治らないものを治させられては、たまらないでしよう？

私も家庭で折りにふれて、家内に言います。「治らないものは治さないで下さい」と。しょうがないでしよう？出来ないのですから。

折角持っている優れた能力を、社会的に発揮できるように応援してあげて下さい。それが、本当の意味での特別支援教育・特別支援です。

相手の気持ちや立場の理解が、不得手なのです。“立場”というものは目で見えません。人の“気持”も目で見えません。

見えないところに意味を見出すのが下手なのですから、それをくどくどと言葉で解説されたらもっと分からなくなるのです。

よろしいでしょうか。短い言葉で、「こうなんです」と言ってあげることなのです。

自閉症の人は、話すことが相当出来ても、話すことより相手の話を聞くことがずーっと下手なのですよ。

私たち、皆さんは、話すよりも相手が話していることを聞く方が得意です。言葉は、小さい時から相手が話していることの意味を理解するところから覚えるわけです。自分で話をするのは、後からです。お母さんがあーだこーだって言っていることが相当分かるようになって、そのうちにちょっとずつ言葉が出てくるのです。

話し言葉に限って申しますと、発達障がいの人達は、自分では相当話せているのに、相手の話していることを理解するのは苦手です。

何事も字義どおり理解する、ということです。“空気を読む”なんてことは、とても困難なことです。この子達にしてみれば、首を長くして待つなんてことは、キリンの話ですよ。

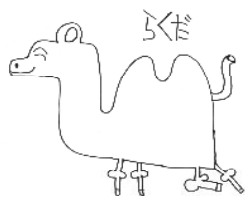
冗談や比喩は通じにくいのです。臨機応変、

応用的なことが下手です。ですから、鬼ごっこのような臨機応変な遊びを楽しめる発達障がいの子もはいないのです。鬼ごっこをみんなで楽しんだという子はいませんよ。瞬間々々、臨機応変、その場その時の応用力を必要とする遊びだからです。そして、ドッジボールなんて、最悪の時間ですよ。地獄の苦しみです。あんな中に入れなくてあげて下さい。ボールを、すぐぶつけられてしまいますよ。

それに対して「要領が悪いなあ」なんて言っている人がいますけど、先生の頭のほうがよっぽど悪い。しょうがないのです。発達障がいの子どもはそういう特性を持っているからです。目の不自由な子どもにドッチボールをさせているのと、ほぼ等しいですよ。この子達はそういう特性を持っているのです。ドッチボールなんて出来ませんよ。鬼ごっこなんて小さい時から出来ませんよ。

ジグソーパズルをこんなに素早く組み立てられるのに、ブロック遊びがこんなに上手なのに、文字をこんなに良く早くから覚えるのに、どうしてこんなことが出来ないの？というふうなことを言います。一般の子どもたちの場合には、文字を覚えるのは大変だけど鬼ごっこのほうは直ぐに出来ちゃった。この違いがとても重要なことですね。

視覚的なことが得意です。ジグソーパズルやブロックやカルタや神経衰弱などが強いのです。ご理解ください。



4. 治療的に治すようなこと 統合教育

この子達をお育て頂くときに、養育・教育をするときに、機能的に治すようなことは絶対にしないで上げて下さい。治らないのですからね。

正しい適切な比喻かどうか分かりませんが、「もうこの子は視力を回復することはないのです」と言われた子どもの目を、現代の医学でなんとか見えるようにしようとしているようなものです。これは不可能ですね。

身体障がいの状態で生まれついて、「いろいろしましたけれどここまですが限度です」ということになって、「あとは松葉杖ですか」「車いすですか」「何ですか」ってそういうことであっても、まだあえて少しでも歩けるように訓練するようなことに等しい過酷なことです。車椅子を上手に操れるように、松葉杖でスイスイ少しでも歩けるようにしてあげたい、と普通は考えませんか？

是非決して無理強いをしないで上げて下さい。機能的に治さないで上げて下さい。修正をしないで上げて下さい。優れたところが伸びるようにならずと見守っていて上げて下さい。

この子達は出来ることしかしないのです、当たり前ですけども。ああこんなことならこんなにやりたがる、これが得意なんだ、とこういうものをゆっくり見つけて上げて下さい。

言葉を短く、一度に一つのことだけを言うように心掛けて上げて下さい。それが入ったら、また次のことを言って上げて下さい。それも、内容は出来るだけ肯定的な内容で。

統合教育 無理解 引きこもり

無理を強くないで下さい。安易な統合やイン

クルージョン教育というようなことは、後遺症を残しますよ。

私も、統合教育を一所懸命に行った時代がありました。30年近く前に、本当に一所懸命に、7～8年努力をしました。良いと思って行ったのです。悪意はなかったのです。でも、無理解・無知でした。無理な統合は、この子達を苦しめることが多いのです。

みんなと一緒に交わることによって、みんなと同じことが少しでもより良く出来るように、というこちらの希望的・願望的観測でした。こういう中で、この子達がどれくらい傷つくか、あるいは自己不全感を感じるか。そして、みんなと同ようにはそんなに自分は出来ないのだという惨めな思いをどれくらい強く持つか。本当に無理解でした。本当の意味での価値の高い特別支援教育をされている生徒に比べれば、自信を持って世の中に出ていく力を失いますよね。

いま、大変な数の人たちが引きこもっています。その中に発達障がいの人が相当いらっしゃるのです。きちっと数が調べられているわけではありませんが、政府の公式見解では、引きこもりの人が70万人から80万人いるとか、予備軍の人が155万人いるとか、こう言われました。そのうちの何パーセントの人が発達障がいの人なのか分かっていません。けれども、相当の数の方がその中にいらっしゃるでしょう。引きこもりたくて引きこもっているのではないのですよね。ある意味、もう人間関係が怖くて出ていけないのです。

私達が、人間関係に傷つく経験ばかりをさせ過ぎてしまったのです。

今はどうでしょう。こういう後悔とかしくじり・誤りが、今はもうないなんて申し上げているではありません。それどころか教育現場の近況を見て本当にびっくりしました。やはり適切な教育がなされていません。

IQが正常だからなんでも普通学級で教育を、なんてこんなバカな、ひどいことはしないで下さい。「IQが正常だから身体障害があってもみんなと同じように運動会をしましょう」なんて、「体操の時間も同じにしますか」なんて言っている。

無知な人から見れば、ハンディキャップを持っている人が苦しんでいることが分からない。それを、教育をしている側が分からないでどうしますか。傷つけるでしょう？劣等感を感じさせてしまうでしょう？引きこもるといのはそういうことの結果でしょう？引きこもりたくて引きこもっている人なんていませんよ。苦しくて引きこもっているわけです。

統合教育とかインクルージョンとか、自分も善意ではしたのですが、一所懸命していた時のことを振り返ってみて、安易でした。無知でした。

特性 本当の特別支援教育

聴覚や視覚や味覚や、いろんなことに特性を持っています。食べ物の、偏食もいろいろあります。味覚が違いますよね。聴覚もいろんな意味で違います。違うのが普通です。私たちからすると何でもない音を、苦痛に感じます。光の刺激にも、特別な光に対して弱い子がいます。

私達は、いろんな味覚の違いを“偏食”なんて言ったりします。善意でありましょうけれども、食べることを強制する人がいます。無知の結果です。給食を残さず食べるまでお昼休みを与えないなんて、ひどい先生がいたのですよ。熱心って言えば熱心です。しかし、これくらい無知・無理解なことはないのです。

「あんたはどこも不自由なところはないのだから飛び箱が飛べるはずだ」と言っていて、指導を繰り返す。これもひどいこと

であります。

みんなと同じことを同じようにさせることが、いい教育ではありませんよ、皆さん。

本当の意味での特別支援教育をしてあげてください。特別なのです。

私は家庭に帰れば特別支援されています。違うのですから。それでくつろげるのです。

“みんなと同じに出来る”ということのを、求め過ぎないで下さい。苦痛体験が消えにくいからです。

アメリカの自閉症協会の理事の方でチャールズ・ハードさんという方が、日本自閉症協会のお招きで日本にも講演にお見えになりました。チャールズ・ハードさんは自閉症の息子さんをお持ちで、アメリカ中の自閉症の人の幸福を考えて活動・運動をしていらっしゃる。このチャールズ・ハードさんがこうおっしゃいました。

「自閉症児のお母さんで英国の専門家でローナ・ウィングという方に自閉症の人について最も顕著な特性を何か一つ挙げるとしたら何かと聞いたら、『想像力が働かないで困っている子どもたちです』と言いました。なるほど、と思います。それも適切な指摘だと思います」

「自閉症の専門家として、そして自閉症の息子の父親として、自分はいえこう言いたい。『自閉症の人は、物事を忘れることができないで苦しんでいる人』です」

これも鋭い指摘ですよ。傷つけられたことが消えませんか。

こういうことでありますよ。いったん引きこもるような状態になった人が社会に再出発出来るように応援するってことが、どんなに大変なことか、ということでもあります。

タイムスリップしてフラッシュバックしてくる。何年前のことであっても、いま目の前でそれが起きているような、そういうことになって

しまう。

「あんな些細なことが、そんなにひどいフラッシュバックなんですか」

知らない者にはそう思えます。みんなと同じことを求め過ぎないで下さい。苦痛体験が消えなくなりますからね。苦痛でないことなら結構ですよ、みんなと一緒にいろんなことをしても。

表面的な出来・不出来に、一喜一憂などしないであげて下さい。後遺症への予防、予防への配慮をしっかりとあげて下さい。

理解者に恵まれて、成功体験によって自尊心・自己肯定感を育てていくことが出来るように、してあげて下さい。

理解者に恵まれて「ああ、これが出来た」「あれが出来た」ということをね、出来るようにしてあげて下さいね。好きなことはそればかりするでしょう？

教室で何かを教えているときに、「失敗をさせる」などということがあったら自閉症の生徒を教える教師として不適格です。失敗させるようなこと、それがどれだけの傷になって残るかを知らずに行うなどということが、私達も過去にありました。今でもそういう先生がいなくてもないので、あえて申し上げておきます。

この子達には優れた能力が必ずあります。それが発見できるような課題を与えて頂きたいですね。みんなと同じ課題を与えていたら、そんなに簡単には発見出来ない。

優れた能力があるのに、本人達は謙虚ですね。



5. 二次障がいを防ぐ

周囲の人が満足して安心することよりも、当事者・本人が安心するようになることを心掛けて下さい。

それは、TEACCH が繰り返し言っていることです。そのために私たちはどういう努力をするのか。無理解で、無知で、発達障がいや自閉症の人達への支援が成功していない人達ほど、自閉症の人に一方的な努力を強いている。「がんばれ!」「こうなさい!」と。

優れた支援をしているところは、支援をしている人のほうが自ら努力をしているわけでしょう? これを皆さん、お考え頂きたい。そういう努力によって、私たちはこの子達、この人たちへの二次障がいを防いであげることが出来るのです。

二次障がいの多くは、自信を失うことです。勉強やその他の努力を放棄してしまうことです。親や教師やその他の人への反抗やいら立ちや劣等感から、そうして遂には不登校・引きこもりのような状態になってしまうのです。一部の人には、大変激しい、非行・犯罪の方向に走ってしまうのです。

こういうことを、どうぞ皆さんご理解頂きたい、とこう思います。

とりあえずこのくらいにして、あとはご質問して頂いてお答えしたいと思います。



《ご質問》 1

中一男子、アスペルガーの子を持つ親です。自分自身も、アスペルガーの主婦です。自分も、二次障がいで重度の鬱を持っています。アダルトチルドレンのため、実家とも絶縁中です。夫婦仲も悪いので、一人で男の子2人を抱えて育てています。苦しくて、苦しくて、子どもに対する罪悪感でもいっぱいです。毎日辛いです。

《アドバイス》 1

今日まで、幼少の頃から、これほど理解者に恵まれなくて、大きくなり大人になり結婚され、子どもを持つということをされてこられた方は、珍しいのではないのでしょうか。

非常に不幸な経験を、し続けてこられたのですね。

いろんな意味で、発達障がいの方がこういうことにならないように、皆さんにご支援頂きたいのです。それは、一人でこの方を支えていくというのはとても困難だと思います。今からでも、本当の意味での理解者たちに支援を受けて下さい。困窮している人達を支援するグループ、団体、組織、共同体で理解のある支援を受けて下さい。

理解者に恵まれなければ、絶対に安定した方向に向かっていくことが出来ないのです。

何にも悪いことをなさってこなかったのですよ。だけどこんな不幸な状態に追いやられてしまうのです。で、たぶんね、このお母さんのお母さんお父さん、学校の先生、友達たち、周りのいろんな人たちが無理解のために、このようになってしまった。悪意のもとにこういう状態に追い詰めたとはい、単純には思いませんけどね。

発達障がいの人の方から、アスペルガーの人の方から周りの人たちのことを理解するなどということは、とても困難ですから。

周りの人が理解してこちらから

「アスペルガーの人は、アスペルガーのままであなただけがいいのですよ。これこれこういう人たちだということが、私たちにはちゃんと分かっていますから。安心して有りのまま、自分の地を出して日々生きて下さい」

「お困りになったことで、私たちが協力して問題をすべて軽減して無くしたりすることは出来ないかもしれないけど、出来る範囲のことは協力しますから」

と周りが寄り添って下さらなければ、発達障がいの方々が安心して生きることが出来ません。

TEACCH が何故あんなに成果を上げ、世界中でそれを承認されているかという、発達障がいの人を治そうという発想がないのです。発達障がいの人が発達障がいのまま、安心して幸福に生きていくことが出来るように、安心して学ぶことが出来るように、安心して働くことが出来るように、周りにいる人達が協力をし、そうなるように努力をするのです。

また、視覚的構造化というのは、例えば、目で見て分かるように状況を作るとか、教科書を作るとか、あるいは教材を作るとことです。職場では、目で見て分かるような状況で働けるように、その部分だけでも、職場の仕組みをどのように作り替えればいいのかと、周りが協力するのです。周りが努力するのです。

ところが、周りがそういう努力をしないで、本人にばかり求めてきた。当たり前にあるような環境や状況や学級や学校や職場やらに、本人のほうが努力や適応をするように周りが求め続けてきたでしょう？

私たちが TEACCH プログラムを一所懸命にご案内して努力をするようになって、ずい分とそれは軽減されてきたように思いますけれどもね。

こちらが努力してあげて下さい。どうすればこの人が、この子が、安心して発達障がいのままで学べるか、発達障がいのままで働けるか、

そのためには周りがどのように協力して状況を作っていけばいいのか、環境を作っていけばいいのか、こういうことに努力することなのです。

たとえわずかでもそういう努力をして下さる所にお通い頂きたい、そういう所にご相談にいらして頂きたいと思います。

理解者に恵まれなかったら、立ち直れないですよこの方は。大変な状態でいらっしゃる。お分かり頂けるでしょう？

中学二年生のお子さんをアスペルガーだと思っていられる。ご自身も、自分をアスペルガーだと思っていられるお母さんで、二次障がい重症になった。二次障がいというのは本来持っている傷害じゃないのです。周りの無理解なことに対する不適応反応です。二次障がいが重くて鬱病になってしまわれている。

発達障がいの人は適切に育てられなければ、結果として、アダルトチルドレンと言われるような状態になってしまう。ひどいですよ、無理解は。そのご実家とは絶縁中だということです。

ご実家が理解してあげてほしい、と本当は思いますけれども、適切な専門家に出会うこと無く今日まで生きてこられたのだなあ、としみじみ思います。

「実家が分かってくれたら」「夫が少しでも分かってくれれば」と嘆いておられる。夫婦仲も悪いので、結果として一人で2人の子どもを抱えて育てていらっしゃる。「苦しくて苦しくて、子どもに対する罪悪感でいっぱいです。毎日辛いです」とおっしゃっておられるのですね。

辛いでしょ。それは、お辛いでしょ。誰一人、周りで本当に意味での理解してくれる人がいない。身内にもいないし、夫もそうではないかもしれない。

ソーシャルワークやケースワークをなさる方がいらしたら、夫の理解を求めて下さるといいなと思います。ご主人が理解者になるだけでもだいぶ違います。なにも、悪意をもって理解が

出来ないということではないでしょうから。

分かってくださると、「妻のことを何とも言えず愛おしく思えてくる」という夫は決して珍しくありません。逆もあります。奥さんのことをね。

ある県の学校の校長先生なのですが、奥さんと別居をされていた。私の講演を聞きに来て下さって、別居をしている妻がアスペルガーだっということが分かった。

「もう心を入れ替えました」「家へ戻って一所懸命に心を入れ替えた」「心を尽して妻と生活してゆこう」とこうおっしゃったのです。

ご立派な先生だな、と思っています。「困難なことがあったらまたご相談に伺います」と言って、そのあとおいでになりませんから、いろいろなことがいい方向にいつてらっしゃるのかなと思ったりしています。

あり得るのですね。理解出来ないと、「何でこんなことが出来ないのか」というようなことで喧嘩になったり、すれ違いになったりしてゆく。親から見て子どもに対してでも、先生から見て生徒に対してでも、みんなこうなるのです。それは、発達障がいの人々の特性が分からないから。

だから、「理解者に恵まれて下さい」ということを先ほどから再三申し上げているのです。理解できれば、本当に私たちは、より適切な寄り添い方が出来ます。そうすることによって、この子達が好きになります。気休めでなく、私は発達障がいの子どもたちが好きです。この子達は、正直でしょう？ 真っ正直でしょう？ 裏表がないでしょう？ 嘘をつかないでしょう？ もう少し上手に嘘をつければこんなひどいことにならなかったのに、と思いますよ。発達障がいでない人は、いろんな程度に友人や親子や夫婦の間で、嘘も方便という範囲内での嘘をついて取り繕って安定しているわけです。発達障がいの人くらい真っ正直だったら、いろいろな難

しいことが起きるのだなと思います。この人達がいかに正直で、それに比べると一般の定型発達の人達の普通だと思っている人達がいかにズルイか、ウソつきであるかっていうのが、分かります。悪いウソと違って申し上げているのではないのですけれどね。そうすると、何とも言えず不憫な気持ちになりますよね、この人達に対しての気持ちが。

是非、理解者に恵まれて、そういう人達のサークルやクラブやなんとかかっていう所へおいでになる機会を、周りの人が協力して作って下さるように、と思います。



《ご質問》 2

息子は高校3年生です。普通高校です。コミュニケーションなど苦手なところもありますが、前向きに就職を考えています。今後、社会の障がい者雇用支援を利用したほうが良い場面もあるかもしれません。その場合、本人への告知と本人の受容が不可欠です。告知のタイミングと方法について、アドバイスをお願いいたします。

《アドバイス》 2

大変なことだと思います。

私の身内にもいますけれども、その子が小学一年生に入学する時に告知してやりました。

そして、告知をなさる時にね、何年生になっても、どんなに大きくなってでも、大切な原則はこういうことだ、と私は思っています。

それは、発達障がいは発達が悪っているわけではない、ということです。優れているところがたくさんあるのです。劣っているところも、もちろんあるのです。最初に告知する時には、

出来るだけ、優れているところをたくさん伝えてほしいのです。優れているところがない子どもはいませんから、ない人はいませんから。小さな子どもであれば、「あんたはジグソーパズルが上手だったね」とか、そういうところをたくさん伝えた後に、「だけどころが苦手でしょう？ 弱点欠点があるでしょう？」とこういうふうに分けて伝えてあげて下さるのがいいのです。

「こんなことがこんなに出来ても、こんなことはこんなに苦手でしょう？ こういう人のことを世の中では発達障がいと言うの」

「発達障がいというのは発達が劣っているという意味での障がいではなくて、発達がいろんなところで不均衡で、デコボコがあるのです。こういうことが出来ても、こういうことが苦手なのですという意味でね」

というふうな伝え方をしてあげるといいですね。

そしてね、その場合にお気を付けになる必要のあるのは、発達障がいであることが、悲しいこと、不快なこと、いやなこと、ダメなこと、という意識のある人が伝えてはいけません。伝わりますから、それが。

多少誇張して申し上げると、発達障がいは素晴らしい、とこういうくらいの気持ちを持っている人、発達障がいに肯定的な感情を持てる人が伝えてあげて下さい。私は発達障がいが好きですからね、自分がそうだからって言うのじゃありませんが、好きですからね。肯定的なところをたくさん伝えた後に、弱点・欠点・弱いところを、あとから控え目に伝えてあげて下さい。

「あなたのように能力が高い人は、高機能発達障がいと言うのですよ。」

「あなたのように絶えず自由におしゃべりが出来るような人をアスペルガー症候群と、言う人もいますよ。」

というふうにして伝えていくのですね。

発達障がいに否定的なマイナスの感情を持つ

ている人が伝えては、駄目だと思うのです。そして、伝える時に、その子の持っている優れた面をいくつも伝えながら、弱点・欠点・弱い面を後から付け足すようにして伝えて、この弱点・欠点のある方向を必要とされる所には進路を向けて行かない。得意なことがたくさん発揮できる所へ、大学へ行く時にせよ就職する時にせよ、こちらに向けてこれから進んで行こうというふうに、肯定的な希望をもった伝え方をされるということが大切だと思いますね。



《ご質問》 3

二歳の娘が、療育センターに週一で通っています。もともと夜泣きもひどかったし、なによりも物すごく癩癩がひどかったことが悩みで、今に至っています。

最近、外出すれば娘がやたら叫び、泣くこともあって、かなりの確率で店の人から必ず「うるさい」とか「迷惑だ」とか苦情を直接言われることが増えてきました。正直、この調子が続き過ぎてもう母親の私自身が外出がおっくうになっています。

娘のような行動がこれからもずっと続くものなのか、すごく気になります。娘は限りなくブラックに近い自閉症のグレーと言われています。

《アドバイス》 3

ブラックであってもグレーであっても、連続体でしょう？ どこからがブラックで、どこからがグレーということではないのですよね。

そして、私はこういうことを思います。グレーの人のほうが、大きくなって不適應を起こされている場合が多いのです。何故かという、一見軽そうに見えるから何でもかんでも出来るようにと無理強いされ過ぎているところがある

のですね。

こういうことを申し上げていいと思うのですが、引きこもりの人とか、大変不幸な犯罪を起こしてしまった人に何人も出会ってきましたが、ほとんどの方が普通学級だけで教育を受けてこられましたね。本当の意味での適切な特別支援教育を、どなたも受けられていない。それは軽いからです。軽いと言ったら変ですけれど、グレーだからです。ブラックだったら、特別支援教育をしっかり受けようと思われたのではないのでしょうか。ですからグレーだから問題が軽いのではなくて、特性が一見軽く見える、ブラックだったらより強く見えるということであろうかと思います。

この子がどういう子なのかということを、本当にしっかりご理解なさって、ご家庭で生活をされて、例えば、これから行くところを、行く前に絵カードか何かを作っておいて

「スーパーに行きますよ、コレだよ」

と行くところの絵カードを何枚か作っておいて、それを提示しながら行く。二か所三か所行かざるを得ないときは仕方ありませんけれども、それはあんまりこの子達が安定することではないのですけれど、一か所ずつ選ぶ、時には二か所くらいとかね。

そういう時に、どこへ行く、何を買いに行くってというようなことを、絵で示してあげるといいのです。こういうお子さんに話し言葉で伝えるというのは、苛立たせるばかりです。情緒を、より不安定にさせますから。

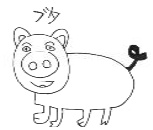
話し言葉は出来るだけ短くしか使わない。最小限にする。そして、意味ある言葉を絵で示してあげる。大きくなったら文字カードで、文字で伝えてあげる。あと、規則的情報に切り替えながら、何時にどこへ行くのかってことが、出る前に分かっている状態にしておいて下さるといいですね。

絵を描いて、示してあげて下さい。スーパー

マーケットならスーパーマーケットのトレードマークみたいなものを示されてもいいし、入口の写真をお撮りになっておいて示されてもいい。「どこそこに行く」って一言言って、「さあ行こう」と。それから、「何を買おう」「何を買いに行く」ってというようなことも絵でお示しになってもいいと思います。

何しに、どこへ行くのかということが、具体的に分かれば分かるほど、この子達は、たとえ二歳であれ何歳であれ、ずっと安定しますから、そこをお示し下さるのがいいですね。

何をされるか、どこへ連れて行かれるか、いつまでこのようにさまようのか、何もわからない状態で連れまわされるとというのが、この子達には一番不安定になることですので、そこをお気をつけ下さればいいと思います。



《ご質問》 4

発達障がいがあり、登校を渋る子どもにどんな対応をすることが望ましいでしょうか？特に、学校での環境調整をお願いするにあたって、大事なことは何でしょうか？

《アドバイス》 4

とても重要なことですね。行きたがらない学校へ、行けばそのうちに慣れて、新たな適応力が身について、発達したとお考えになるのは、これは安易な間違いですね。

行きたがらない学校へ、行けば行くほど後遺症を大きくしていきますよ。これは、本当にそうです。一般の生徒にとってもそうですけれどね、行きたくない学校へ通うというのは、ほとんどプラスになりません、いろんな意味で。特に、発達障がいの子どもには非常に良くないですから、この子が安心して通える場所、あるい

は興味や関心を抱けるように、教材やその他いろいろなことを用意して授業をしてもらっているような学校を探されたらいいですよ。嫌がっているのを一所懸命無理して連れて行って、そして長い目で見て成功した、というのは、ほとんどありません。40何年仕事をしていて、本当にそう思いますね。

そして、ご家族がしばしば間違われるのです。ある種の高望みをしていらっしゃるのです。よりレベルの高いところへこの子を入れると高いレベルのことが出来て、この子は発達により順調に行く、みたいな方向に夢を持たれるのです。でも、事実は逆です。引きこもる方向に行きますよ。辛いところへ行くということは、出ていくことがだんだん嫌になっていって、というようなことになりがちですから。

よく TEACCH は言うのですよね。少し易しすぎることから教えてくれるような教育が最善です。失敗をさせないように。「ああ、できる。」「これも分かる」というようなことを繰り返し繰り返し教えていって、どういうことをどのように準備すれば、この子は新たなこともこのように学べるか、ということを先生が生徒から学んで見つけていく。こういう教育のプロセスを始めなければ、大きな成果を上げることは出来ないのです。TEACCH では、そういうやり方で進めていくのですよね。高機能の人たちはほとんど大学に行って学んでいますけれど、IQが正常だから普通学級で、なんてこんな乱暴な安易なことをしてはいけません。私たちには、本当の意味でよく修練を積んだ優れた教員が少ないので、なかなかこういうところを選びにくいのですけれどね。

やや易し過ぎるところのほうを選んで下さるほうがいいのです。これがね、日本の保護者の方にはなかなか出来ないことなのです。難し過ぎる所ばかり選んでいらっしゃるから。

そして、大きくなればなるほど不適應の度合

いが小さい時より増してきますでしょう？ 周りをよーくご覧下さい。大きくなるにつれて安定した豊かな能力を発揮して適應力を広げていかれるという所は、決定的に少ないのではないですか、日本では。知っていらっしゃいますか、この事実を。よくお考えになって下さい。子どもの身になって下さい。

周りの人が子どもに向かって「お母さんの身になって」とか、「お父さんに気持ちが分かってほしい」みたいな教育をなさっていたのですよ。それは、保護者ではありません。出来の悪い教師みたいなものです。いいですか、保護者に徹して下さい。保護をしてあげて下さい。毎日楽しく学校に行けるように、毎日楽しく一日を過ごすことが出来るように。こういう発想でお育て下さいね。

優れた先生たちも、そうだと思います。「ようこそ私の教室へ」「今日の私の授業で良かったですか？」と問いかけながら、生徒に教育を下さるでしょう？ そういう先生というのは。



《ご質問》 5

私は、小学校は通級、中学校は出来ない教科を特別指導、それから高校は普通高校でした。高校の担任の教師には、ばい菌がうつるとか、頭が悪いとか言われたり、殴られたりしました。そのあと専門学校に行っていました。専門学校では情報工学を修め、いつも上位の成績でした。でも、会社に入ってから、やはり暴力をふるわれて、鬱になりました。

《アドバイス》 5

適度にいい特別支援教育を受けながら普通学級にいらして、専門学校では大勢の皆さんと一

緒にいらしたということですね。一番苦しかったのは、高校時代でしょうか。会社でも、同時にいろいろ出来ないということから暴力をふるわれたのですね。でも、今の課長さんは県のジョブコーチの方と連携して、よき理解者なので、今は職場で頑張っているらしいですね。素晴らしいお話をありがとうございました。



《ご質問》 6

アスペルガー症候群の4年生の息子がいます。不登校がかなりひどくて、どうしたものかと担任と頭を悩ませておりますが、これから中学校を選ぶにあたり、どうしたらいいかアドバイスをして下さい。

《アドバイス》 6

生徒が登校をしづりたくなるような教室ではダメなのです。しづらなくてもいいような教室を運営して頂かなくてはなりませんね。

しづらなくてもいいように、どういう教育を教室の中でして下さいなのか。その教室の中で、何をどうすればいいのか。あるいはそういう工夫が限界であれば、特別支援教育のほうにも通級するとか。あるいは、思い切って特別支援教育のほうに移られるとか。

我慢して努力をしているうちに何とかなくなって、忍耐力が身につくという適応力が身につく、ということも私も昔考えていたことがあるのです。でも、何とかありません。登校を渋りながら行くというのは、必ずあとからその後遺症が出てきますよ。登校をしづるような学校へ行ってしまうのは、いけないのです。

ではどうしたらいいのか。先生とお話しになって下さい。

「登校をしづらないでいいような教室が出来

ますか?」「クラスメイトの理解が必要ですか?」「授業の運営の仕方の工夫が必要ですか?」「何がどうですか?」ということをお考え下さい。中学はもっと先のことでいいのではないのでしょうか。今4年生ですから、あと5年6年とあるのですからね。

とても重要なことです。今、毎日通っている学校で登校をしづっているらしいということですね。

昔は私も、30年40年前の時にはやや安易に考えていました。というより発達障がいの人のことをよく知らなかったのです。それで、一般の生徒と同じように、多少辛くても頑張っているうちに、乗り越えてしまう、乗り越えたら一皮むけて強くなっている、忍耐強くなっている、というふうに思っていました。これは普通の子どもではそう言えるのです。ところが、この子達は反対ですよ。

一般の生徒たちは、困難を乗り越えて何かを達成したときに、感動・喜びが大きいのです。山登りと同じです。

ですが、発達障がいの子どもは、傷が大きくなるのですよ。困難なんかを乗り越えさせてあげるといことは間違えです。

これは発達障がいと関係のない方にはなかなか分からないですよ。理解し難いことです、本当に理解し難い。

そしてね、日本の教育にしろ、困難を乗り越えさせてやるということが好きすぎるのです。それを発達だと思っているのです。よくあることですね。一般の生徒に対しては、そうですよ。でも、発達障がいの人に対しては、そうではありませんから。

先ほど質問して下さった青年も、いろいろご苦労されて乗り越えて来られたようですが、ゆっくり話してもらえれば、いまだに気持ちのあちこちで壊されたことを引きずっているらしいという部分がたくさんあると思います。例

えば、フラッシュバックを起こして勤務中に爆発してしまうとか。

過保護にしないでとか、甘やかしてホイホイしてあげて下さい、とこんなことを安易に申し上げているのではないのですよ。

どうぞ、我慢をさせないで上げて下さい。我慢というのは、私たちと違った意味合いがあります。私たち皆さん一般の子どもたちは、我慢を乗り越えて行くってということがありますが、この子達は“我慢しないで身につけていくことが本当の能力になっていく”のです。

怠け者ではありませんからね。我慢しないでいろんなことが出来るような環境においてあげて下さい。怠けているのではないのです。一般の人たちは、努力我慢しなくても何とかやっていけるとなると怠け者になりますよ。その違いを私たちはなかなか本当の意味で理解できなかった。そののところだけでもしっかり理解していただけたらと思います。この子達に忍耐力を鍛えるなんてバカなことをしないで下さい。

我慢・忍耐をさせないで下さい。



《質問5の方からのご発言》

私も痛いくらい痛感しました。あと残りの2年間を無理に普通学級に閉じ込めるのはお止めになって、お子さんの興味のあることをさせて下さい。例えば図書室登校なんてことでもいいと思うのです。実は、私は小学生の時に本が大好きで、図書室にいつもいて歴史の本を読んでいた。それを中学の先生に申し送りしてもらえて、中学の先生が、「それなら高校は理解ある高校に進学して専門学校に行って、好きなことを延ばすことを考えればいい」と言ってくれたのです。そして私は障がい特性に配慮した就職先に入り、勤続10年半となりました。発達障

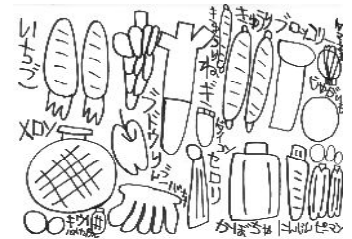
がいの人たちが社会に出るための準備に役立つようにと、地域活動もしています。

どうか、長所を伸ばしてあげて下さい。出来ないことを責めないで下さい。ましてや暴力や何かで否定されれば、落ち込んで鬱病なりなんなりになってしまいます。

当事者の叫びは、

「おれたちを分かってくれ！」

ということです。



佐々木先生から最後にひとこと

では最後に、私どもは家庭で、小さな活動をしています。その一つがホームページです。

「ブドウの木 佐々木正美」で検索してみてください。いろいろ発信しております。是非ごらん下さいね。(長い拍手)

司会者：佐々木先生、今日は本当にありがとうございました。先生は今日は午前中からお話しされていますので、本当にお疲れ様でした。では、最後に主催者のひとつ日曜クラブ ta-a-ta の関洋から一言ご挨拶を申し上げます。

佐々木先生、本日は心温まるそして大事なお話を頂き、本当にありがとうございました。ご来場の皆様、お忙しいところをおいで下さいまして、本当にありがとうございました。

佐々木先生は、「他者との交わりに豊かなものや喜びを感じられるといいな」と、いつもおっしゃっていますね。私ども日曜クラブ ta-a-ta

は、いろいろな人がボランティアで運営しております。学童クラブで障がいを持つお子さんと交わった人、農業をして近くの特別支援学校に畑を提供している人、グループホームで食事作りなどで交わっている人、心病む方々のお話をお聴きしている人、保育を学んでいる学生、青物市場で働いている人などいろんな人達が、日曜日の保育にボランティアとして加わって下さっています。

活動に加わっている皆さんから共通して語られることは、「障がいを持つお子さんや人達には、地位だとか肩書だとか職業だとかということはまったく関係ないね。心で私たちを見ているのだね」ということなのです。

そして、

「優しく、飾らない生活を送らないといけないよ」と、障がいを持つ子どもたちにいつも言われているように感じています。

皆様、今日は本当にありがとうございました。

————— 終了 —————

————— 講演会メモ —————

第一回 佐々木正美氏研修会

テーマ：「自閉症の人が地域で生活するために
～ 理解者に恵まれて ～」

講演：佐々木正美氏

日時：2011年10月2日 14:00～16:00

場所：練馬区立勤労福祉会館

主催：日曜クラブ ta-a-ta

共催：NPO 法人 I am OK の会

NPO 法人 手をつなご

協力：(社) 正夢の会

NPO 法人 東京都自閉症協会

後援：練馬区児童青少年部



※カットは、矢野英志郎さん（東京都小平市のぞみ作業所勤務）が描いて下さいました。